

(4) 伝統行事の振興と積極的な発信

伝統行事である釋奠ならびにこども釋奠、曝書等の意義を積極的に発信し、参加者や見学者を増やすよう努力する。

具体的な事業：釋奠、釋奠記念講演、こども釋奠、曝書

(5) 印刷物等の販売

『論語抄』等テキストの販売を積極的におこない、足利学校の価値や活動を知ってもらうよう努力する。

具体的な事業：『論語抄』『かなろんご』『書き下し論語』『ガイドブック』等の発行と販売

(6) 関係団体との連携

関係団体や周辺住民と積極的に連携し、アイデンティティの核として活用されるよう連携を深めていく。

具体的な事業：足利学校環境保全協会、史跡足利学校釋奠保存委員会、足利学校論語研究会、栃木県漢詩連盟等で行う事業

(7) 日本遺産としての活用

「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」(資料9)として、足利学校の歴史的な位置づけや価値をさらに広め、観光にも役立つ。

具体的な事業：日本遺産サミット、周辺日本遺産との連携事業、ホームページ等による情報発信

(8) 教育遺産世界遺産登録推進協議会との連携

世界遺産登録を目指し、4市で共同研究等を行っている。その研究成果は、相互に講師派遣を行い、講演会等を行っている。

具体的な事業：講演会、共同研究、ホームページ等による情報発信

(9) 所蔵資料の展示公開

所蔵する書籍や文化財等を展示で積極的に公開し、活用していく。企画展のテーマも、時節にあった内容で、工夫するよう心がける。

具体的な事業：遺蹟図書館の展示、庫裡の展示、国宝書籍等の特別公開、特別企画展示

(10) まちなか観光への貢献

他の施設や観光スポットとの連携を深め、まちなか観光の中核施設としての役割を果たす。

具体的な事業：足利学校さままつり、夜間公開

(11) インバウンドへの対応

年々増加している海外からの旅行者への対応。

具体的な事業：海外マスメディアの取材対応、海外向け旅行商品企画への協力

第8章 整備

8-1 方向性

史跡の保護を前提とする。史跡の東半分については、第1次保存整備事業によって整備された江戸時代中期の姿を維持管理していく。復原されていない建物として「御文庫」があり、今後の発掘調査等で遺構やその構造が確認できた場合は、復原整備を検討する。西半分については、旧足利学校遺蹟図書館や文庫、移築された西側土塁や北側土塁等、明治時代以降、先人たちが足利学校を守るために取り組んできた足跡として、当面の間、現状を維持していくものとする。

史跡内の樹木や植栽については、遺構の保護及び修景維持を考慮しながら適切に管理していくものとする。

8-2 方法

(1) 構成要素の整備の課題と整備方法

地区	構成要素	整備の課題	整備の方向性
参道区域	入徳門	建築後100年以上経過した文化財建造物の維持	当面は袖塀等を含め文化財建造物として適切な維持管理を行っていく。
	参道	松並木の維持管理。孔子立像は参道西側に東面して建てられている。	松並木は史跡の景観として、強剪定や間伐行う。参道に東面する孔子立像は、新たなガイダンス施設整備の際には移転を検討する。
	正一位霊験稲荷社	建築後200年以上経過した建物の維持、覆屋(拝殿)の維持	足利学校の屋敷稲荷として文化財的な価値のある建物として適切に維持管理していく。南堀の復原整備を行う場合は、移築保存を検討する。
孔子廟区域	学校門	建築後350年以上経過した文化財建造物の維持	当面は袖塀等を含め文化財建造物として適切な維持管理を行っていく。
	杏壇門並びに築地塀	建築後100年以上経過した文化財建造物の維持	当面は袖塀や築地塀等を含め文化財建造物として適切な維持管理を行っていく。
	大成殿(孔子廟)	東日本大震災等により不陸や傾きの生じた建築後350年以上経過した日本最古の孔子廟の保存修理・耐震補強工事	平成30(2018)年11月より屋根茅替え部分修理・耐震補強工事を実施している。平成32(2020)年3月完了予定。
	足利学校遺蹟図書館	展示ケースの照明整備。建築後100年以上経過した文化財建造物の維持	資料保護のため、展示ケースの照明をLED化していく。文化財建造物として適切な維持管理を行っていく。
	文庫	建築後100年以上経過した建造物の維持	貴重書を保存してきた建物としての文化財的な価値がある建物として適切に保存し、維持管理していく。
	石造書庫(新文庫)	建築後80年以上経過した建造物の維持	貴重書を保存してきた建物としての文化財的な価値がある建物として適切に保存し、維持管理していく。
	収蔵庫(新々文庫)	空調設備の不十分な収蔵庫	将来的には、ガイダンス施設内に一体整備を行う。
	歴代席主墓等及び学校役人(代官)茂木家の墓	墓石の維持管理	歴代席主墓は、墓石の現状を観察し、必要に応じて、保存処理を行う。
かなふり松(字降松)	樹勢維持	足利学校の故事を伝える樹木であり、樹勢を保つ維持に努める。万が一、枯死した場合は6代目の松を移植し代替えとする。	

地区	構成要素	整備の課題	整備の方向性
孔子廟区域	堀・土塁 (西半部)	北側、西側の堀跡・土塁の取り扱い 学校門西側の南堀跡の取り扱い	西土塁・北土塁は、移築後100年以上が経過し、防火・防風のための、常緑樹のサンゴジュを植樹し、孔子廟を守ってきた歴史がある。江戸時代中期の姿に土塁、堀を復原整備するためには、現在の土塁の再移築、外トイレ、収蔵庫、石造書庫、遺蹟図書館、文庫を全て移転する必要があるため、当面は現状維持することとし、樹木剪定、強剪定、伐採等による適切な維持管理を行う。学校門西側の南土塁は高木伐採等を行い、現状を維持する。 学校門西側の南堀跡は、将来、復原整備することとし、その場合は稻荷社の移築保存を検討する。
学問所区域	方丈	復原整備後30年近く経ち、屋根等が老朽化している	復原建物の価値を損なうことのない範囲で、茅の結束方法、板葺きの樹種、長寿命化等を検討し、屋根の葺き替えを行う。屋根の葺き替えに併せて、ドレンチャー設備、送水ポンプ設備の改修を行う。内部についても畳替えや襖張替え、講演等で利用のための音響設備等の整備を行う。
	庫裡		
	書院		
	衆寮	復原整備後30年近く経ち、屋根等が老朽化している	復原建物の価値を損なうことのない範囲で、板葺きの樹種、長寿命化等を検討し、屋根の葺き替えを行う。
	木小屋	復原整備後30年近く経ち、屋根等が老朽化している	復原建物の価値を損なうことのない範囲で、茅の結束方法、長寿命化等を検討し、屋根の葺き替えを行う。
	土蔵	復原整備後30年近く経ち、屋根等が老朽化している	復原建物の価値を損なうことのない範囲で、板葺きの樹種、長寿命化等を検討し、屋根の葺き替えを行う。
	裏門	復原整備後30年近く経ち、屋根等が老朽化している	刺茅の定期的な継続により、現状を維持していく。
	南庭園	江戸時代中期の絵図の姿に近づけるよう整備していく	検証を行いながら、絵図の姿に近づけるような植栽管理を行っていく。根拠のない樹木については伐採を検討する。南庭園と方丈との間の参観通路は、本来なかったものであり、参観順路の変更を検討する。
	北庭園		
	隠寮跡 (藤棚)	藤棚拡張、説明板設置	藤の成長に合わせて、藤棚を切石表示の範囲まで拡張していく。隠寮跡であることを示す説明板を設置する。
堀・土塁 (東半部)	樹木、排水設備の適切な維持管理	土塁北東隅、南東隅に植えたケヤキが伸び、根が土塁を崩す恐れや倒木の危険があるため、伐採する。伐採後は、絵図の樹種を研究し、代替樹木の植栽を検討する。	
サエンバ	周囲の茶ノ木の生育が悪く、内部の樹木が繁茂している。	周囲の茶ノ木の育成を図ると共に内部の植栽の伐採や強剪定を行う樹木の整理を行う。	

地区	構成要素	整備の課題	整備の方向性
史跡地全体	史跡内の樹木・記念樹	倒木や枝の落下等による建造物、遺構への影響、参観者の安全確保	史跡内の樹木は、南北庭園同様、絵図の姿を基本とし、それに近づけるよう計画的に管理していく。高木は、倒木や枝の落下等の危険なものは、強剪定、伐採を行う。記念樹・寄贈樹木については、枯れた時に伐採し、新たな植栽は行わない。絵図に基づかない樹木は、新たに受け入れない。
西側隣接地	茂右エ門蔵	建築後100年以上経過した建物の維持	大日大門通りの歴史的景観に寄与する建物として、適切な維持管理を行っていく。
	ポケットパーク等	大日大門通り、史跡足利学校跡のバッファゾーンの維持	大日大門通りに面しており、適切な維持管理を行っていく。

(2) ガイダンス施設の課題と整備方針

① 現管理事務所等の現状と課題

- ・ビデオルームが30人程度しか入れるスペースがなく、団体に対応できない。
- ・講所も定員30人で、通常行っている儒学等教養講座を行うのにも手狭で、定員100人の足利学校アカデミーは開催できない。
- ・市内小・中学校の論語素読体験、論語体験プログラムも方丈で行っているが、中学生で70人程度しか対応できない。
- ・収蔵庫、土蔵等貴重書や所蔵品の保存場所が独立した建物で、展示・閲覧場所と離れており、展示や閲覧のための開閉が天候による制約が大きい。
- ・遺蹟図書館は展示のために建てられた施設でないため、文化財の展示に適していない。
- ・トイレの数が少ない。
- ・屋内の休憩スペースがない。

② ガイダンス施設の整備方針

- ・場所は、参道西側を基本とし、建物は1棟とする。
- ・100人程度が入れるビデオルームの設置
- ・100人程度が受講できる講座室
- ・飲食可能な休憩スペース
- ・空調完備の収蔵庫・前室(閲覧室)
- ・国宝書籍等の展示が可能な展示室
- ・事務室
- ・トイレ(多目的、授乳設備)

(3) その他の施設・設備の整備

① 防火・防災設備

- ・防犯・防火のための設備も設置後30年近くが経過し、計画的に再整備を行っていく。
- ・ドレンチャー・放水銃・消火栓のための送水ポンプは、老朽化により修繕を繰り返しており、早期に更新が必要。ポンプ施設は地下室にあり、水没の恐れがあるため、地上への移転を含めて、検討する。
- ・防火・防災設備については、日々新たな方法や設備の研究が進んでおり、効果や費用を見極め、よりよいやり方を検討していく。

② 多目的駐車場

- ・障がい者等の駐車場が少ないため、管理事務所隣接地に整備を行う。